

銭湯支援条例案を否決

都議会委 里吉議員が賛成意見

東京都議会文教委員会は17日、日本共産党都議団(吉田信夫団長、17人)が提出した「東京都公衆浴場振興

条例案一を日本共産党の賛成、自民、公明、民主、維新、生活者ネットの反対で否決しました。

採決の前に、日本共産党の里吉ゆみ都議が



里吉都議

賛成の意見表明。年々利用者が減少し、経営が深刻になるなかで、公衆浴場が減少している現状に対し「条例を

制定し、振興計画を策定することで、これまでに以上に浴場振興を計画的、総合的に進めることができる」と述べ、条例案への賛同を呼びかけました。

里吉氏は、公衆浴場は都民の公衆衛生、健康増進や住民の交流など福祉の向上に重要な

役割を果たすとともに、日本の庶民文化を継承・発信する存在として、その文化的価値を楽しむ人や、スポーツ愛好家、観光客からも新たな注目が集まっていると重要性を強調。これ以上浴場を減らさないよう支援を頼む「銭湯があって

助かっている」という都民からの声を紹介しました。

自民党の栗山芳士都議は、都や自治体が必

要な施策をすでに実施しているとして「新たな条例を制定する必要はない」と反対意見を述べました。